

第三期中期目標期間業務実績に関する評価結果への対応状況

意見等	入学定員充足率の向上を図る取り組みを進めた結果、大学院修士課程及び博士前期課程全体の志望者数が平成 30 年度に比べ、令和 5 年度では 4 割程度増加するなど一定の成果を出すことができたが、数値目標を達成できない研究科が多くあった。
対応状況	【入試広報について】 大学院新入生を対象としたアンケート調査において、効果の高い広報ツールとして評価されている本学ウェブサイトでの情報掲載に加え、研究科ごとの説明会や研究科合同説明会を継続的に実施している。 さらに、定員充足率の向上には外国人留学生の確保が重要であると考え、東海 3 県の日本語学校に加え、東京・大阪の留学生向け予備校にも入試情報を提供するなど、積極的な広報活動を行った。 今後も、大学院生向けの経済的支援制度を含む情報発信を強化し、さらなる広報活動に努める。 【大学院支援体制について】 令和 7 年度から大学院支援体制を強化するために大学院担当副学長及び担当主幹を新しく配置し、教育・研究・キャリア形成の質向上に取り組むこととした。 【各研究科における対応状況について】 〔医学研究科〕 修士課程（一般）については年 2 回の入試説明会をオンラインで実施した。名古屋市立大学附属病院群に勤務するメディカルスタッフの進学率が増加していることから、今後は学内・院内での広報にも注力することを検討している。また、私費留学生、日本人学生には支援金制度もある国費留学生プログラム『社会課題解決型脳神経科学プログラム』のアピールも積極的に行っていく。 令和 6 年開設の修士課程（NP コース）については、入試ごとに二度の入試説明会をハイブリッドで実施した。また、附属病院群や関連病院にも直接出向き、看護部への説明などを行った結果、附属病院群からは、進学者への入学支援が得られることとなった。 博士課程については説明会を実施せず、個別の問い合わせなどに対応した。充足率が 60%程度に留まっているため、附属病院群勤務医や修士課程学生への進学奨励を引き続き行うこととする。修士課程学生への進学奨励として、医学研究科独自の奨学金制度のアピールを行っていく。 令和 6 年度より医療人連携育成センターで、附属病院群勤務の医療従事者を対象とした修士課程および博士課程学生へのセミナーを実施し、授業料支援を実施した（実績：修士 2 名、博士 6 名）。

対応状況	〔薬学研究科〕 毎年３月に博士前期課程１年生、学部学生を対象にした博士後期課程および博士課程の進学説明会を開催するようにした。 原則全ての大学院の講義はオンラインで実施し、また、社会人学生にはオンデマンド受講を認めることにする等、通学の移動時間に配慮し、社会人学生が受講しやすい環境を整えた。 共同ナノメディシン科学専攻において、社会人を含む大学院生がより履修しやすいカリキュラムとするため、部門共通科目の単位取得条件を緩和して科目選択の自由度を高めた。 新たな博士課程・博士後期課程への進学支援策として、薬学研究科独自の奨学金・支援金の周知、外部財団の奨学金や学術振興会の特別研究員の積極的な申請等、経済的な支援の強化を進めた。 〔経済学研究科〕 大学院入試の終了後に開催される大学院入試委員会において入学試験状況を検討し、入試の合格発表の時期を早め、学生募集要項を関係各所への配布を行った。また、内部進学者を増やすために、入試制度の改善や受験準備に十分な時間が取れるよう進学説明会の開催時期に配慮した。 〔人間文化研究科〕 人間文化研究科の博士前期課程のうち、臨床心理コースは入学定員を確保している。一方で、一般選抜は志望者数が多数であるのに対し十分な学力や日本語能力を有しない外国人留学生がほとんどであるため合格に至らず、入学定員を確保できていない。 過去に日本語能力の水準が高くない受験生が多数を占める中で合格者を選出したため、在籍中の外国人留学生に対する指導が問題となっている。学力水準や日本語能力を下げた状態で外国人留学生から更に合格者数を増やすのは、教育の質を維持することが困難となることが想定される。 以上より、人間文化研究科では、日本人学生の充実及び一定の日本語能力を持つ外国人留学生の確保に向けて以下のとおり対応した。 (1) 専門職（教員、保育士、公務員等）のリスキリングを踏まえたスキルアップに向けた広報の充実を図り、志願者の開拓を行った。 (2) 外国人留学生に対する日本語能力の向上に係る指導について、国際交流担当の教員等と検討した。 (3) 外国人留学生として受け入れる前段階の外国人研究生では、日本語能力の向上に向けた指導を行った。 一方で、人間文化研究科博士後期課程に関しては、直近２年は定員を超過して合格者を出しているため、定員数に対する合格者数の適正化に向けた検討を行った。
------	---

対応状況	〔芸術工学研究科〕 よりきめ細やかな対応ができるように研究科独自で説明会を開催した他、学部内推薦制度を導入し、GPA の高い学部 3 年次学生に対して大学院進学を促した。 〔看護学研究科〕 研究科において大学院入試説明会を継続して実施し、受験生の確保に向けて取り組んだ。 〔理学研究科〕 総合生命理学部学生を対象に大学院説明会を毎年 5 月と 10 月に開催し、研究・開発職に携わるためには大学院で研究能力を培うことが必要であり、また、将来的には社会的要請やグローバル化の加速化からも博士の学位が重要となることを説明して大学院進学を督促した。さらに、理学研究科在学生から大学院での研究活動を学部学生に説明するとともに、研究の継続性の観点からも本学の大学院進学を強力に推奨した。 また、オープンキャンパスや出前授業、高校教員向けの大学説明会等の機会に、高校生・保護者・高校教員に向けてキャリア形成の観点から、大学（学部）入試だけでなく、大学院進学も見据えた将来設計を考えていただくよう働きかけた。 〔データサイエンス研究科〕 令和 6 年度に初めての学生募集を実施し、定員充足率 100%を達成した。 データサイエンス研究科の入試広報においては、大学院合同説明会に加え、社会人の参加も考慮し、データサイエンス研究科単独のオンライン説明会を週末に開催した。 また、データサイエンス研究科開設の周知及び学生募集に繋げるため、入試の時期に合わせた交通広告やリスティング広告の実施、企業訪問など積極的な広報活動を実施した。
------	---